

平成 27 年度第 4 回 沖縄県がん診療連携協議会・緩和ケア部会議事要旨

日時：平成 28 年 1 月 21 日（木） 19：15～22：25

場所：琉大病院がんセンター

参加者10名：笹良剛史、大湾勤子、尾崎信弘、川田聡、友利健彦、笠原大吾、垣花真紀子（Skype）、
多和田慎子、崎枝久美、増田昌人

欠席者10名：足立源樹、伊藤昌徳、喜納三津男、比嘉宇郎、栗山登至、新屋洋平、島袋恭子、福地泉、
棚原陽子、崎枝久美

陪席者 3 名：中村清哉、井岡亜希子、下地亜樹絵

< 報告事項 >

1. 平成 27 年度第 3 回緩和ケア部会議事要旨について

資料 1 に基づき、増田委員より平成 27 年度第 3 回緩和ケア部会議事要旨の報告があった。

2. 沖縄県緩和ケア研修会 2015 の報告について

資料 2 に基づき、笹良部会長より浦添総合病院、中部病院で開催された緩和ケア研修会の報告があった。浦添総合病院では 29 名が研修会を修了し、中部病院では 27 名が研修会を修了した。年度内は残りハートライフ病院のみである。

3. 第 3 回都道府県がん診療連携拠点病院緩和ケア部会報告について

平成 27 年 12 月 7 日（月）に国立がん研究センター築地キャンパスにて第 3 回都道府県がん診療連携拠点病院緩和ケア部会が開催された。

笹良部会長と増田委員、中村先生で参加された。内容についてはネット上で確認できる。

増田委員より、都道府県内の PDCA サイクルの構築についての資料を添付文書で委員にメールする事となった。また、資料 5 の平成 27 年度 都道府県がん診療連携拠点病院 PDCA サイクルフォーラムについての説明があった。2 月 13 日（土）に増田委員、新屋委員、がんセンターから仲本さん、大久保さんが参加する事になった。沖縄県は県の計画の中間評価で細かく見ているのでそれに基づいて、ある部分は拠点病院、医療者が担うという形で、報告書を出す予定である。来年のアクションプランや計画を立てるという事で、それをもとに緩和ケア部会のロジックモデル協議していく事になった。

4. 的場班第 2 回班会議の報告について

平成 27 年 11 月 8 日に日本赤十字社医療センターにて開催された。

全国で行われている苦痛のスクリーニングの報告が行われた。がん拠点病院を中心に、苦痛のスクリーニングが義務化されているが、どのように行っていくのかがまだ決まっていない県が多い。

沖縄県も、県全体でスクリーニングが実施される事を目標にしているが、実際は除痛率調査も進んでおらず、入院に限って全例連日スクリーニングを実施しているのは、南部病院、豊見城中央病院、琉大病院の 3 か所であり、他拠点病院はまだ出来ておらず、今後どうしていくのかという問題がある。

という意見があった。何も決まっていない状況で拠点病院でのスクリーニングが義務化されており、各施設に任せているが、まだ足踏み状態である。部会長より青森県立病院を手本にし、緩和ケア部会を中心に沖縄県全体で導入していけたらいいのではという意見があった。

多和田委員より、琉大の外来はほとんど出来ていない。化学療法室で行われているが、やった後の拾い上げが難しい。ピックアップ方法の改善が必要である。入院は85%まで上がっている。スクリーニングをやる意義を、中村先生が、院内ナース向けに講義しているのでフィードバックの方法について進めている。何の為にやるのかとか、医師と看護師のコミュニケーションを含めた問題もあるが、メリットとしては、琉大でナースや薬剤師からの紹介経路を作ったところ、緩和ケアチームに紹介が増えた。痛みの程度が低い患者も増えたが、痛みで困っている患者も緩和ケアセンターに来るようになってきている。

入院患者のデータとして、チーム医療が発達してくると、麻薬の使用量が一度増えてその後減っているというデータがある。

5. 琉大 ACP の取り組みについて

資料6に基づき、琉大病院麻酔科の中村先生より報告があった。実施マニュアルの試作を繰り返すうちに導入が難しく、当初の計画が遅れ気味だが、院内導入へ向けて、いい例悪い例をビデオ撮影後、ビデオをもとにACPを導入するための研修会を3月に開催する事になった。3月11日に部会長が宮古でACPの講演を行うのと広報があった。

6. 今知っておきたい「がん」のことイベント案内について

資料7に基づき、笹良部会長より中部病院で主催の一般向けイベントの案内があった。ライカムイオンモールでの2月6日に開催される。

7. その他

2月6日に第1回九州緩和医療学会が熊本で開催される。

<協議事項>

1. 平成28年度事業計画について

資料8-3に基づき、井岡先生より第二次沖縄県がん対策推進計画の中間評価における緩和ケア関連領域について報告書案の説明があった。施策指標マップ、分野アウトカム、中間アウトカムの代表指標を作成した。指標の客観指標についてはほぼ埋まってきている。主観指標として医療者アンケート調査と患者アンケート調査を行っている。医療者調査については20病院に協力してもらい75%の回収し、数値が出ている。患者調査は6医療機関の2100人ほどのがん患者にお願いしたが、回収率は26%にとどまっている。この数値が出れば、中間評価報告書案はほぼ埋まる。緩和ケア部会でまとめた内容を略称にしてまとめ、事務局で選択した。

2月19日のがん診療連携協議会で説明する予定である。

除痛率の数値は琉大の参考値で出すことになった。

これをもとに、平成28年度のロジックモデル、事業計画の協議が行われた。

個別施策について

- ・がん診療連携拠点病院を中心に、精神的痛みを含む痛みのスクリーニングを実施する
 1. 運用のための事務局の設置
 2. 県共通のプロトコールの作成
 3. スクリーニングのための研修会の開催
 4. 実践

- ・がん診療連携拠点病院の緩和ケアチームが中心となって、他の医療機関と相互連携による患者及び家族の利便性を重視した緩和医療を提供する

1. リストの作成
2. 緩和ケア部会で緩和ケアに関するコンサルテーションを行う

- ・ 1. 緩和ケア研修会の開催
- 2. 緩和ケアフォローアップ研修会の開催

中間アウトカム

- ・緩和ケアの中期（5年）ビジョンが策定され、そのビジョンに向けて組織的に活動している
- ・すべてのがん患者とその家族が、がんと診断されたときから質の高い緩和ケアを受けている

分野アウトカム

- ・すべてのがん患者とその家族が、基本的または専門的な緩和ケアを実践できる医療従事者や、患者の状態に応じた切れ目のない連携体制によって、がんと診断されたときから質の高い緩和ケアを受け、身体的・精神的心理・社会的苦痛が軽減され、療養生活に満足している。

2. 平成 27 年度事業評価について

資料 9 に基づいて事前に事務局で付けた点数で概ね承認された。

1. 年 3 回以上、緩和ケア研修会企画、実施の調整をする

実 績：拠点病院 3 施設、ハートライフ病院、浦添総合病院、豊見城中央病院、沖縄赤十字病院で開催済み

評 価：10 点

次年度：継続。拠点病院以外の開催可能な病院と連携し修了者が増加するように強化する。平成 29 年 3 月までに拠点病院のがん診療に携わる医師の 90%、拠点病院の研修医（2 年目～5 年目）の 100%の修了を目標とする。

2. 緩和ケアフォローアップ及び在宅緩和ケア研修会を開催する

実 績：平成 27 年 2 月 21 日（日）、沖縄県医師会館にて開催予定。

評 価：10 点

次年度：継続。

3. 在宅緩和ケア地域連携事業を強化する

- (1) 在宅緩和ケアマップの改定を行う

実 績：メンテナンス中

評 価：7 点

次年度：継続

- (2) 症状緩和を目的とした緩和ケア関連の地域連携クリティカルパスの作成と運用

実 績：作成済みだが、症例が 1 件しかなく運用が出来ていない。

評 価：5 点

次年度：継続。琉大病院緩和ケアセンターと医療支援センターで協議していく。

4. 苦痛の評価を行い改善する

- (1) スクリーニングを行う

実績：琉大は一部の外来、全病棟で実施している。中部病院でも一部で始めている。

評価：7点

次年度：拠点病院ではスクリーニング実施率を100%に持っていく。外来での運用の困難点を改善できるように協議していく。

(2) 除痛率調査を行う

実績：琉大ではセーフマスターのデータ検索にて診療科、病棟別に算出し、毎月のデータを提示している。

評価：7点

次年度：拠点病院でスクリーニングを行い、除痛率を上げるようにしていく。

(3) 気持ちのつらさに対応していく

実績：琉大のみで実施

評価：3点

次年度：継続

5. 看取りを施設で行うための勉強会の実施

実績：勉強会を開催した。

評価：10点

次年度：継続

6. 緩和ケアの現状を分析し、ホスピス病棟をもつ病院、在宅医療との連携を把握する。

(1) 現状を分析し把握する

実績：ホスピス病棟や在宅医療者との交流会を年4回行っている。次回は平成28年3月3日開催予定

評価：10点

次年度：緩和ケアの現状を分析し、ホスピス病棟を持つ病院、在宅医療との連携を把握する。

7. チーム医療体制を強化する為に基礎データ収集を行う

実績：がんリハ理学療法士、緩和薬物療法薬剤師の人数把握済み。

評価：10点

次年度：継続。データ収集を行う。

8. 緩和ケアに対する認識を普及させる（一般向け）

実績：ポスター、緩和ケア研修会修了者名簿の掲示、緩和ケア週間にてパネル展示・冊子の配布等行った。

評価：10点

次年度：継続 一般向け研修会を開催する

9. 患者会へ後援する

実績：未実施

評価：3点

次年度：引き続き検討していく

10. 行政との交流会を行う。

・年1回、行政との交流会を行う。

実績：今年度は交流会の企画、開催を進める事ができなかった。

評 価：0点

次年度：引き続き、検討していく

3. 平成 28 年度緩和ケア研修会について

資料 10 に基づき、日程調整を行った。第 1 回目を中部病院、9 月開催を那覇市立病院、12 月開催を琉大病院、平成 29 年 1 月開催を宮古病院で承認され、開催希望施設があるかメールで回覧、決定していくことになった。

4. 今年度の緩和ケアフォローアップ研修会について

資料 11 に基づき、2 月 21 日に開催されるフォローアップ研修会で、受講希望者を増やすために、認定看護師や緩和ケア研修会を受講した方でアドレスがあれば送付、周知する事になった。研修会前に、講師の事前打合せを行うことになった。

5. 次回の緩和ケア部会開催日程について

候補日：平成 28 年 4 月 21 日（木）19：00～

平成 28 年 4 月 28 日（木）19：00～

6. その他

増田委員より、2 月 14 日（日）沖縄県医師会館で開催の在宅フォーラムの周知があった。患者さんの為の療養場所ガイドを作成したとの紹介があった。

平成 28 年度第 1 回 沖縄県がん診療連携協議会・緩和ケア部会議事要旨

日時：平成 28 年 4 月 19 日（木）19：05～21：29

場所：琉大病院がんセンター

参加者 13 名：笹良剛史、伊藤昌徳（Skype）、野里栄治、尾崎信弘、新屋洋平、川田聡、笠原大吾、
垣花真紀子（Skype）、福地泉、親泊美香、友利健彦、多和田慎子、増田昌人
欠席者 6 名：足立源樹、喜納美津男、大湾勤子、栗山登至、島袋恭子、崎枝久美
陪席者 1 名：山口元子

< 報告事項 >

1. 平成 27 年度第 4 回緩和ケア部会議事要旨について

資料 1 に基づき、笹良部会長より平成 27 年度第 4 回緩和ケア部会議事要旨の報告があった。

2. 緩和ケア研修会終了報告について（ハートライフ病院）

資料 2 に基づき、笹良部会長よりハートライフ病院の緩和ケア研修会の報告があった。

3. 琉大 ACP の取り組みについて

資料 3 に基づき、増田委員より琉大病院における ACP の取り組みについて、3 月 16 日に研修会を行ったとの報告があった。好評だったが受講者が少なく、どうやって院内に広げていくかが課題とのことだった。全診療科の医局会で説明を行った後、上半期中に各診療科 1 例は ACP を行ってもらう予定とのことである。

4. 沖縄県立中部病院主催 今知っておきたい「がん」のことイベント 報告について

資料 4 に基づき、新屋委員より 2 月 4 日に中部病院主催で「今知っておきたい『がん』のこと」イベントを行ったとの報告があった。アンケートの回答は 63 件だが写真に写っている人を合計すると 200 人以上はいたようだ。相談コーナーでは医師と話したいという方がほとんどであったが、緩和ケアの相談はなかった。事前告知は新聞、県の広報誌などで、新聞掲載後は問い合わせが増えたとのことだった。

5. 平成 27 年度緩和ケアフォローアップ研修会について

資料 5 に基づき、笹良部会長より平成 27 年度緩和ケアフォローアップ研修会について報告があった。終末期やアドバンスケアプランに焦点を当てている。内容が多かったので深みが足りなかった。もっと多くの人に受講してもらいたいので、研修時間や行う場所など検討が必要ではないかとのことだった。

< 協議事項 >

1. 平成 28 年度の部会長・副部会長及び部会委員について

資料 6 に基づき、部会委員の確認が行われた。北部地区医師会病院の委員が比嘉委員から野里委員に変更になった。琉大病院からは緩和ケアセンターの中村副センター長が委員に加わる事が承認された。今年度の部会長は前年度に引き続き笹良委員、副部会長は新屋委員と中村委員が務めることになった。

2. 平成 28 年度事業計画に基づいた具体的な割り振りや実践について

資料 7-1、7-2、7-3 に基づき平成 28 年度事業計画に基づいた具体的な割り振りや実践について増田委員より説明があった。部会の仕事を絞ること、アウトカムに到達するには全例スクリーニングとフィードバックが効果的ではないかとの提言があった。

3. 平成 28 年度の的場班の臨床試験及び実践について

平成 28 年度の的場班の臨床試験及び実践について増田委員より説明があった。委員から各病院の痛みのスクリーニングの現状について報告があった。琉大病院については多和田委員より報告があり、痛みのスクリーニングは定着してきたので次の段階に進みたい。具体的には業務フローの作成や院内マニュアルの修正を考えているとのことだった。南部病院と豊見城中央病院については笹良部会長より報告があり、南部病院の緩和ケア病棟ではスクリーニングをしていない。豊見城中央病院は入院患者のスクリーニングを毎日やっている。外来患者は化学療法室の待合で問診をしているがリアルタイムフィードバックが課題とのことだった。県立中部病院については新屋委員より報告があり、去年は外来患者はほぼ全員スクリーニング出来ていた。入院患者でがんがある方は入院時のスクリーニングで全例聞いている。今年電子カルテを導入するのでスクリーニングと除痛率もシステムに入れたいとのことだった。沖縄県立南部医療センター・こども医療センターについては川田委員から報告があり、院内に緩和ケアは精神の問題についてコンサルトしたいときという雰囲気があり、痛みについては主治医がやるという状況で、これから改善していきたいとのことだった。県立八重山病院については尾崎委員より報告があり、スクリーニングをモデル病棟から全病棟に展開したところだが、4月にスタッフが半分以上入れ替わるので最近スクリーニングを再開したところである。外来患者については問診時にやる事になるだろうとのことだった。県立宮古病院については垣花委員より報告があり、スクリーニングはがん性疼痛認定看護師がやっているが全例は出来ていない。電子カルテのシートを増やしてやるということになったがたたき台はまだできておらず、スクリーニングとフィードバックについては県立八重山病院と同じく 4月にスタッフが半分以上入れ替わっているためこれからということだった。北部地区医師会病院については野里委員から報告があり、4月に来たばかりなので院内の状況がまだわかっておらず、緩和ケアチームがあるかもわからないとのことだった。増田委員より、琉大病院でのスクリーニングのやり方を資料としてまとめて情報提供すること、希望する施設には青森中央病院のシステムエンジニアを紹介する事が提案された。

4. 県拠点病院等における緩和ケア研修会の受講状況と今後の対策について

増田委員より、拠点病院の緩和ケア研修会受講義務について説明があった。受講義務のある医師は中部病院があと 53 名、琉大病院があと 123 名とのことで、自院主催の緩和ケア研修会ではまかないきれないので他施設主催の緩和ケア研修会でも受け入れて頂けるよう新屋委員と増田委員より要請があった。

5. 平成 28 年度の緩和ケア研修会について

平成 28 年度の緩和ケア研修会について、豊見城中央病院は 11 月 26 日、27 日に行うとのことだった。緩和ケア研修会における合同検討会議等の開催状況及び内容について増田委員より説明があった。がん診療連携協議会にて協議を行う事が決議された。

6. 次回部会開催日程について

次回部会開催は 7 月とし、日程調整はメールで行う事になった。

7.その他

笠原委員より、在宅で麻薬があまり使われていないという現状について情報提供があった。増田委員より、「沖縄県在宅緩和医療研究会」の周知があった。